

会 議 録

会議の名称	平成23年度富士見市青少年問題協議会
開催日時	平成23年8月3日(水)午後1時30分～3時30分
開催場所	中央図書館2階 集会室
出席者	星野信吾 会長、藤屋喜代美 委員、森元 州 委員 今井 寛 委員、越智弘尚 委員、高橋藤明 委員 河原塚努 委員、竹内春夫 委員、石川雅美 委員 高野路子 委員、田村淳子 委員、関 健二 委員 山田一江 委員、有賀輝彦 委員、本田 律 委員 吉田京子 委員、前田憲之 委員、行松 泉 委員 事務局(東海林子ども未来部長事務代理、和田子育て支援課長、 木下子育て支援課副課長、松本子育て支援課主任)
欠席者	寺島直子委員
公開・非公開	公開(傍聴人 0人)
会議次第	任命書交付式 会長あいさつ 委員自己紹介 会長職務代理者の指定 講話 「子どもへの望ましい関わり方 2回の全市親子調査で分かったこと」 講師 富士見市教育相談室室長 木津秀美 氏 青少年健全育成について意見交換
会議資料	任命書交付式及び青少年問題協議会次第 富士見市青少年問題協議会委員名簿 「地方青少年問題協議会法」「富士見市青少年問題協議会条例」 講話資料(「子どもへの望ましい関わり方 2回の全市親子調査で分かったこと」「子ども・若者ビジョン概要」)

会 議 内 容 (要 点 記 録)

任命書交付式

委員の任期満了にともない、委員（１７名）に任命書を交付した。（欠席委員１名）

会長あいさつ

協議会開催にあたり、星野信吾会長があいさつを行なった。

委員自己紹介

出席委員全員が自己紹介を行なった。

会長職務代理者指定

富士見市青少年問題協議会条例第４条第３項の規定により、会長職務代理者として森元委員を指定した。

講話

テーマ『親子意識調査結果の分析結果』

「子どもへの望ましい関わり方 ２回の全市親子調査で分かったこと」

講師 富士見市教育相談室室長 木津秀美 氏

平成２２年に行った「親と子の調査」により、明らかになった望ましい子どもへの関わり方とその課題について、資料に基づき説明がなされた。

青少年健全育成について意見交換

会長：どうもありがとうございました。それではこれから青少年の健全育成について、先生の講話をふまえて、委員の皆さんが日頃感じていることについて意見交換をお願いします。

委員：基本的な生活習慣やコーチング論などのことが取り上げられていたが、日頃言葉使い・マナーについて気になっている。現在英語を教えているが、やはり日本語が基礎となっている。小さい時に絵本をたくさん読んでもらっている子は学校に入った時にきれいな日本語を使えるようになっている。市内の小学校で絵本の読み聞かせを行っているが、言葉を幼児のときから大事にしていくことの大切さを実感している。中学生のアメリカへのホームステイも援助しているが、日本の子どもたちは自分の気持ちを言葉で表現できない。「Thank You.」「ありがとう。」という言葉が出てこない。

会長：先生、今のご意見いかがですか。

講師：大切なのは一定の学問だけではなく、小さい時からの積み重ねが必要ということですね。見え方が鋭いと思います。読み聞かせが大事ということ。小学校などでPTAの方々の協力があることはとても良いことです。自分は元々国語の教師なので、子どもにお話を聞かせることはすごく良いことだと思います。

会長：「三つ子の魂百まで」と申しますが、社会の仕組みがそうなっていること、難しくなっていることもありますね。

講師：この数年、公民館・幼稚園などで「お話の大切さ」「コーチング」「子どもに対する声掛け」についてお話させていただいています。それも一回だけでなく、一年後それを実践してどうだったのかを聞いてみた。すると、「子育てが楽しくなった」「子どもがかわいく思えるようになった」と若いお母さん方がそう言っている。子育てに苦労しているお母さん方がすごく多いと感じています。

会長：他の委員の方いかがですか。

委員：質問があります。中学2年の女子の親です。講話の中で「昔と比べて...」というお話がありましたが、昔とはいつ頃のことですか。今と何が違うんでしょうか。

講師：例えば、今が「クレヨンしんちゃん」としたら、昭和の頃は「サザエさん」ということ。「サザエさん」の中でカツオくんが怒られて、家の外で泣いていたとしたら、近所の方々が様々な場面で声掛けなどのフォローをしてくれていた。そうした地域の力、家庭の「サブシステム」が稼動していた。今はそこが違う。家庭の「サブシステム」が稼動していない。だから、昔と同じ様に叱るのではだめだということです。

委員：昔の親と比べ今の親がだめということではないんですね。安心しました。

会長：他の委員の方いかがですか。

委員：今日の講話で、子どもに接する会話術、気持ちを持って会話することの大切さを学びました。

委員：携帯電話のことが話題になっていましたが、中学生位の子どもたちが、自転車に乗りながら携帯を使っている。帰宅中とか下校中とか、通話したり、メールを打ちながら帰っている。とても危険。大人も自転車の前後に子どもを乗せながら携帯を使っている人がいる。ものすごく危険だ。学校サイドではどのように指導されているんでしょうか。どこに言えばこうしたことがなくなっていくのでしょうか。

会長：日々の指導の中でやられていると思いますが、いかがでしょうか。

委員：学校では携帯電話は持ち込み禁止ということで指導しています。一度帰宅してからのことではないかとは思いますが。ただ先程の講話の中では、中学生の4割は持っていることでしたが、我が校での調査では7割の生徒が携帯電話

を持っているとの結果も出ています。危険防止ということでは、「交通安全教室」を入間東部警察署の方に実施してもらい、その中で自転車運転中の携帯電話使用が危険だということをとて厳しく指導してもらっています。ただ言っているのは簡単なことです。言ってもできないのが中学校です。近所の方から学校へ電話での通報があったりすると、教師はそのお宅まで出向きます。しかし、一声掛けてくれればそれで済むのではないだろうかという気持ちもあるのです。後で中学生に悪さをされたら困る、怖いということを使う方もいますが、そんなことはないのです。大人がちゃんと声掛けをするような、そういう地域づくりが大切だと思います。お互いが知り合って、顔見知りになってもらえれば良いんですが。

委員：昨年もお話しましたが、地域の取り組みとして青少年育成市民会議の水谷支部では、「夏休み宿題教室」という事業に取り組んでいます。今日一日でたくさんの方が参加がありました。この事業は宿題だけではなく、色々な勉強会やお楽しみ会もやっています。この取り組みは、町会など色々な階層の方たちの協力があってこそ可能なものです。今年で8年になりますが、地域で顔見知りもできて子どもたちのとっても良いことだと思います。

会長：人と人とのつながりが大切ですね。まずはそこからはじめることですね。他の委員の方はいかがですか。

委員：今の保護者は自分の子どもをどう育ててよいのか分からず、相談もできない。とても苦しんでいます。コミュニティ作り、発信できる場作りが大切だと思います。

会長：他の委員の方はいかがですか。

委員：今日の講師の話をしてPTAのお母さん、お父さんにどんどん話して行ってほしい。自宅の前が通学路になっていますが、通学や下校途中の子どもたちがいたずらをするのを注意したことがあります。その時に近くにお母さんたちにお礼を言われたことがありますので。また、今の若者は自尊心・自己肯定感が少なく、低い。「どうせ俺は...。」といった思いが強い。その底辺を形作っているのは勉強もスポーツもまあまあ、友達関係も今一つという子が多い。そういう子の早期発見が大切です。

会長：これだけの資料をどう活かしてもらおうのが大事ですね。最後にいかがですか。

委員：小学校6年生の女の子の親です。今友達関係で悩んでいる真っ最中。相談されれば対応しているが...。携帯電話については、できる限りの防御はしています。叱り方とか色々あって困っているところです。

会長：それでは時間となりましたので協議会を終了いたします。今回の協議会で得

たものをそれぞれの委員さんがそれぞれの場で活かしてもらえればと思います。
どうもありがとうございました。

閉会あいさつ 事務局 子育て支援課長